

## ニヨロ語の挨拶表現

梶 茂 樹

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

## Greeting Formulas in Nyoro

KAJI, Shigeki

Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University

Nyoro is a Bantu language spoken by some 667,000 people in the western part of Uganda. The author has been studying this language since 2008, from both descriptive and comparative points of view. In this paper, a list of greeting expressions which are more or less formulaic are presented in a quasi-exhaustive way, showing not only usual morning and evening greetings (good morning, good evening, etc.) but also other formulas uttered on special occasions such as child-bearing of a woman, returning of a hunter from hunting with or without game, etc. Although only Nyoro expressions are treated in this paper, some other languages of the region such as Tooro, Ankore, etc. also use the same kind of expressions. The analysis inevitably comes to deal with titles used in greeting. Nyoro and its closest neighbor Tooro have special titles, called *empâ:ko* in Nyoro (“pet names” in English). They are normally used in greeting to show familiarity and respect to the person addressed. The titles are listed at the end as an appendix.

キーワード：ニヨロ語，バンツー系，挨拶表現

Keywords: Nyoro, Bantu, Greeting

1. はじめに
  2. 朝の挨拶
  3. 昼の挨拶
  4. 夕方の挨拶
  5. 夜寝る前の挨拶
  6. 健康・様子伺いの言葉
  7. 別れの挨拶
  8. 人に対する言付け
  9. 人の家を訪れた時の挨拶
  10. 歓迎の挨拶
  11. 家に帰って来た家族にかける言葉
  12. お願いの言葉
  13. 感謝の言葉
  14. 詫びの言葉
  15. 不幸に逢った人にかける悔やみの言葉
  16. 成功した人にかける祝いの言葉
  17. 子供を無事出産した人への労いの言葉
  18. 仕事をした人に対する労いの言葉
  19. 猟から帰って来た猟師にかける言葉
  20. 水汲みから帰ってきた人にかける言葉
  21. 食事時の挨拶
  22. クリスマスの挨拶
  23. 大晦日，新年の挨拶
  24. 誕生日のお祝いの言葉
  25. 終わりに
- 参考文献  
付録 1. 親称名  
2. 呼称タイトル

## 1. はじめに

ニョロ語(Nyoro)は、アフリカ、ウガンダ西部に話されるバンツー系の1言語である。話し手の数は約667,000人(SIL 2009)で、ウガンダでは大きい部類の言語に属する。筆者はこの言語を2008年から現地調査している。調査の主眼は、語彙集と文法書(声調などの音韻記述を含む)づくりにおかれているが、同時に、この言語は無文字言語であるため、民話や、諺など様々なテキストの記録と分析にも力を入れている。本稿で報告するのは、そのうち挨拶表現である<sup>1</sup>。

筆者は1976年からアフリカで言語調査を行っているが、挨拶表現はどの言語にもあり、それらは語彙集や文法記述の中に含めることはあっても、それだけを取り出して報告することは今までしてこなかった。しかしながら、ここ10年ばかりウガンダ西部で言語調査をしていると、お互い言語が似ているせいか多くの似た挨拶表現が言語を通して使われることがわかってきた。それらを全ての言語について述べるわけにもいかないのだから、ここにニョロ語を代表させて挨拶表現を報告しようと思う次第である。従って、このニョロ語の挨拶表現に関する論考も、ニョロ語の知識のみならず、今までのアフリカにおける全ての言語、とりわけウガンダ西部諸語における調査の経験と知識に基づいている。

ただ専門的に言語調査を行っているとはいえ、全ての挨拶表現が完全に理解できているわけではない。挨拶に固有な言い回しもあるし、また表現が様式化されており解釈が一樣ではないものもある。さらに、語源の定かでないものもある。現地の人も必ずしも語源を全て理解しているわけでない。以下、分からないことは分らないと書いておく。

挨拶表現には様々な領域があり、また様々な形式がある。ここでは、日常的に用いられる朝夕の挨拶表現などのみならず、仕事に対する労いの言葉、また親族を亡くするなど災難に遭った人に対する悔みの言葉などを状況毎に分けて記述する。記述は単に、その意味を示すだけでなく、文法的・語彙的にどういう表現を用いているかも細かく見ていく。そうすることによって、ニョロの人たちが、起きた、あるいは目の前にしている現実をどうとらえているかを明らかにすることができると思う。

なお、「挨拶」という用語に関してはニョロ語では(1)のようなものがある。

(1) a. okuramûkya<sup>2</sup> 「挨拶をする」

<sup>1</sup> ニョロ語の語彙のみならず様々な文法項目や表現を取めたものとして、現在ニョロ語語彙 A Runyoro Vocabulary を作成中である。

<sup>2</sup> ニョロ語の音素は、子音/p, b, t, d, k, g, ŋ, ɕ, β, f, (v), s, z, h, r, rr, m, n, p, j, w/, 母音/i, e, a, o, u/である。以下の表記では/ŋ/を ch, /ɕ/を j, /ɲ/を ny, /β/を b, /b/を bb (ただし鼻音の後では b), そして半母音/j/を y で表記している。母音の上のアクセント記号は、鋭角アクセントが高声調, 山形アクセントが下降調, 逆山形アクセントが上昇調, そして何も付けていない母音は低声調である。なお, (1)に示した動詞の形は全て

- b. okuramukîbwa 「挨拶をされる」  
 c. okuramukîza 「(人)に対して挨拶をする」  
 d. okuramukyângâna 「お互い挨拶をする」  
 e. endámûkyâ 「挨拶法」

なお、本稿で用いる省略形は以下のものである。

APPL (applicative)	: 適用の接尾辞 (「人のために」 「人のせいで」などを表す)	PAST (past)	: 過去時制標識
EXCL (exclamation)	: 感嘆の小辞	Per. (person)	: 人称
FIN (final)	: 動詞の最も中立的な語尾	PERF (perfective)	: 完了語尾
IMP (imperative)	: 命令形語尾	pl. (plural)	: 複数
INF (infinitive)	: 動詞の不定形標識	POSS (possibility)	: 可能
NEG (negative)	: 否定標識	PROG (progressive)	: 進行形標識
NFUT (near future)	: 近未来時制標識	RECIPR (reciprocal)	: 相互形接尾辞
PASS (passive)	: 受身の接尾辞	sg. (singular)	: 単数
		SUBJ (subjunctive)	: 接続法語尾

## 2. 朝の挨拶

朝の挨拶は、日本語の「おはようございます」とか「朝のお目覚めはいかがですか」に当たるものである。ニョロ語では(2)のものである。

- (2) a. [1 人の人に対して]  
 Oraire ó:tâ?  
 o-ra:r-ire<sup>3</sup>                      o-ta  
 you(sg.)-sleep-PERF      you(sg.)-how  
 「あなたはどのように寝たか。」
- b. [複数の人に対して]

不定形 (= 動名詞) である。不定形から最初の oku- と最後の -a を取り除いた形が動詞の基本的な形となる。例えば okuramûkyâ 「挨拶をする」では oku-ramûky-a の -ramûky- の部分が基本的な形 (語基) である。

<sup>3</sup> 以下、例の表示法であるが、1 行目にニョロ語表現を示す。そして 2 行目にニョロ語表現を形態素分析したものを示す (ここでは声調記号と音声的な長音記号は省略してある)。3 行目はグロスである。そして 4 行目に日本語で意味を書いている。ただし同じ表現が繰り返される場合はグロスを省くこともある。なお、この(2.a)の例で -ra:r-ire から -raire へは、-ra.r<sub>1</sub>-ir<sub>2</sub>e における r<sub>2</sub> の脱落と r<sub>1</sub> の r<sub>2</sub> の位置への移動、その結果生じる 3 モーラ音節 ra:i の 2 モーラ化 (rai) という経緯を経る。その他、/j(=dʒ)i/ → [zi] や、/re/ → [le] などの音韻変化があるが、以下では、このような音韻規則とその適用を一々示すことは差し控える。

Muraire mútâ?

mu-ra:r-ire                      mu-ta  
 you(pl.)-sleep-PERF      you(pl.)-how  
 「あなた方はどのように寝たか。」

この「おはようございます」（英 Good morning）に当たる表現は、ニョロ語では、「あなた（方）はどのように寝たか」という疑問形で表現される。用いられている動詞は-ra:r-「夜を過ごす、寝る」で、時制は「近過去完了状態形」である。近過去完了状態形というのは、昨晚、今朝など近い過去に動作が起こり、現在、動作自体は終了しているが、その結果は今も続いていることを示す。従って、この朝の挨拶は、「あなた（方）は寝て、今起きてはいるが、寝た結果、今どのような状態にあるか」を問うているのである。ニョロ人が英語で挨拶する時、Good morning と言わずに、しばしば How did you sleep?とか、How was the night?と聞いてくるのも、このニョロ語表現を英語で置き換えているせいである（ただし、英語ではこのニョロ語のニュアンスは完全には表現できない）。

(2)の表現は動詞の変化形であるから、相手が1人であるか複数であるかによって形が変わる。oraire は相手が1人の場合、muraire は相手が複数の場合である。最初の接頭辞 o-, mu-のところが、動詞の主語を示している。「どのように」を意味する語も、相手が「あなた」であるか「あなた方」であるかによって形が変わる。o-ta は相手が「あなた」（2人称単数）の場合、そして mu-ta は相手が「あなた方」（2人称複数）の場合である。この副詞表現も、動詞の変化形同様、最初の接頭辞の部分が o-であるか mu-であるかによって「あなた」であるか「あなた方」であるかが示されている。

(2)の「どのように寝たか」に対する返事は、(3)の「うまく寝た」である。近過去完了状態形での質問なので、答えも近過去完了状態形となっている。(3.a)は1人が答える場合、(3.b)は複数の人が答える場合である。

(3) a. [1 人の人が]

Ndaire kurú:ngî.  
 n-ra:r-ire                      kurungi  
 I-sleep-PERF      well  
 「私はうまく寝た。」

b. [複数の人が]

Turaire kurú:ngî.  
 tu-ra:r-ire                      kurungi  
 we-sleep-PERF      well  
 「私たちはうまく寝た。」

通常はありえないが、(2)の挨拶の問いに対して、(4)のように、「悪く」と答えることも可能である。朝起きたが、頭が痛いとか体調が悪いといった場合である。ただし、実際には多少体調が悪くとも(3)のように「よい」と答えるのが普通の挨拶のようである。

## (4) a. [1 人の人が]

Ndaire kúbî.

n-ra:r-ire kubi

I-sleep-PERF badly

「私は悪く寝た（＝朝起きたが体調が悪い）。」

## b. [複数の人が]

Turaire kúbî.

tu-ra:r-ire kubi

we-sleep-PERF badly

「私たちは悪く寝た（＝朝起きたが体調が悪い）。」

(5)に実際の挨拶の例を示す。そこではAとBの会話形式となっている。ただ(5)では、以上で触れなかった親称名が付け加わっている。親称名というのは、それを用いると相手に親しさと尊厳を与えるもので、親しい人の間では欠かせないものである。これについては付録1親称名で解説してあるので、そちらを参照されたい。(5)ではAの親称名がAmô:ti, そしてBの親称名がAkî:kiである。

## (5) A Oraire ó:tâ, Akî:ki?

「どのように寝ましたか、アキーキ。」

## B Ndaire kurú:ngî, Amô:ti.

「私ほうまく寝ました、アモーティ。」

Î:we, oraire ó:tâ?

「あなたは、どのように寝ましたか。」

## A Ndaire kurú:ngî.

「私ほうまく寝ました。」

(5)が朝の挨拶の基本であるが、kurú:ngî「よく」を先に取り込んで、(6)のような言い方をする場合もある。

## (6) a. [1 人の人に対して]

Oraire kurú:ngî?

o-ra:r-ire kurungi

you(sg.)-sleep-PERF well

「あなたはうまく寝たか。」

b. [複数の人に対して]

Muraire kurú:ngî?

mu-ra:r-ire kurungi

you(pl.)-sleep-PERF well

「あなた方はうまく寝たか。」

朝の挨拶にはもう1つ(7.a)のようなものもある。(7.a)で用いられている動詞は -ke- 「(夜が) 明ける」で、(7.a)は、本来(7.b)の文から来ている。すなわち、Obwî:re buki:re kurú:ngî 「夜がうまく明けた」から主語の obwî:re 「天気」を省略し<sup>4</sup>、さらに kurú:ngî 「うまく」も省略し、疑問文で表現している。意味は、「(あなたにとって) 天気はうまく明けましたか」ということである。ここでも用いられている時制は(2)同様「近過去完了状態形」である。(7.a)は、主語が obwî:re 「天気」であるため、(2)とは異なって、相手が1人でも複数でも表現は同じである。

(7) a. Bukí:rê?

bu-ke-ire

it-dawn-PERF

「(夜 (= 天気) が) 明けたか。」

b. Obwî:re buki:re kurú:ngî.

obwire bu-ke-ire kurungi

weather it-dawn-PERF well

「(夜 (= 天気) が) うまく明けた。」

### 3. 昼の挨拶

昼の挨拶とは、日本語の「こんにちは」に当たるもので、大体昼の12時から夕方6時頃にかけて用いられることが多い。しかし気をつけるべきは、この時間帯では必ず昼の挨拶表現が用いられるわけではないということである。つまり、昼であっても、もし挨拶をする相手がその日初めて会った場合には、(2)あるいは(7)の朝の挨拶が用いられるのである。まず、朝の挨拶が済まないで昼の挨拶はできない。

(8) a. [1人に対して]

Osi:bire ó:tâ?

<sup>4</sup> (7.b)の形態素分析の所には示されていないが、この言語には名詞のクラスがあり、obwî:re 「天気」はクラス14である。そして動詞の主語接頭辞もクラス14のbu-であり、主語名詞のクラスと動詞接頭辞のクラスが一致している。この動詞の主語接頭辞により、省略された主語名詞がかなりの程度推測することができる。実際、(7.b)の場合は実際にobwî:re 「天気」以外には考えられない。

o-si:b-ire                                  o-ta  
 you(sg.)-spend.time-PERF      you(sg.)-how  
 「あなたはどのように時間を過ごしてきたか。」

b. [複数の人に対して]

Musi:bire mútâ?  
 mu-si:b-ire                                  mu-ta  
 you(pl.)-spend.time-PERF      you(pl.)-how  
 「あなた方はどのように時間を過ごしてきたか。」

この昼の挨拶も、朝の挨拶同様、疑問形で表現される。用いられる動詞は-si:b-「(時を) 過ごす」で、時制は「近過去完了状態形」である。意味は、「今まで時間を過ごしてきて今どのような状態にあるか」ということである。(9)に実例を示す。

(9) A Osi:bire ó:tâ, Akí:ki?

「あなたはどのように時を過ごしてきましたか、アキーキ。」

B Nsi:bire kurú:ngî, Amô:ti.

「私ほうまく時を過ごしてきました、アモーティ。」

Î:we, osi:bire ó:tâ?

「あなたはどのように時を過ごしてきましたか。」

A Nsi:bire kurú:ngî.

「私ほうまく時を過ごしてきました。」

#### 4. 夕方の挨拶

夕方の挨拶とは、日本語の「こんばんは」に当たるものである。夕方6時か7時頃から真夜中までの間に言われることが多い。

(10) a. [1 人に対して]

Oiri:rwe ó:tâ?  
 o-ir-ir-w-ire                                  o-ta  
 you(sg.)-become.dark-APPL-PASS-PERF      you(sg.)-how  
 「あなたはどのように(日に)暗くなられたか。」

b. [複数の人に対して]

Mwiri:rwe mútâ?  
 mu-ir-ir-w-ire                                  mu-ta  
 you(pl.)-become.dark-APPL-PASS-PERF      you(pl.)-how  
 「あなた方はどのように(日に)暗くなられたか。」

この表現は相変わらず、時制は「近過去完了状態形」で、相手に対して質問となっているが、表現がちょっと込み入っている。すなわち動詞語根は-ir-「暗くなる」であるが、これをそのまま用いれば、「(天気)が暗くなる」という風に、天気が主語となるべきところだが、(10)の表現には「(人)に対して」を意味する適用の形態素-ir-と、受身の形態素-wが入っている。そのおかげで、「あなた」「あなた方」など、人間を主語にすることができる。つまり、「あなた(方)は(天気によって)どのように暗くなられたか」と、問うているのである。意味はもちろん、「今晚は、ご機嫌いかがですか」ということである。それに対する答えは(11)のようである。(12)に会話例を示す。

## (11) a. Nyiri:rwe kurú:ngî.

n-ir-ir-w-ire kurungi  
I-become.dark-APPL-PASS-PERF well  
「私は(日に)うまく暗くなられた。」

## b. Twiri:rwe kurú:ngî

tu-ir-ir-w-ire kurungi  
we-become.dark-APPL-PASS-PERF well  
「私たちは(日に)うまく暗くなられた。」

## (12) A Oiri:rwe ó:tâ, Akî:ki?

「今晚は、ご機嫌いかがですか、アキーキ。」

## B Nyiri:rwe kurú:ngî, Amô:ti.

「いいです、アモーティ。」

## Î:we, oiri:rwe ó:tâ?

「あなたは、いかがですか。」

## A Nyiri:rwe kurú:ngî.

「いいです。」

## 5. 夜寝る前の挨拶

夜寝る前の「お休みなさい」に当たる表現は(13)のようである。用いられている動詞は2節の朝の挨拶のところで見た-ra:r-「夜を過ごす、寝る」で、動詞の活用形は希望を表す接続法である。つまり、「あなた(方)がよく寝るように」ということである。実は「あなた(方)はどのように寝たか(=おはよう)」という言い方は、この「あなた(方)がよく寝るように(=お休みなさい)」を受ける質問の形式になっているわけだ。この挨拶には、同じ表現を用いて相手に返す。この「あなた(方)がよく寝るように」という表現は、ニョロ語のみならず、多くのバンツー系諸語で見られる。



- (13) a. [1 人に対して]  
 Orá:lé kurú:ngî!  
 o-ra:r-e                      kurungi  
 you(sg.)-sleep-SUBJ      well  
 「あなたがよく寝るように。」
- b. [複数の人に対して]  
 Murá:lé kurú:ngî!  
 mu-ra:r-e                      kurungi  
 you(pl.)-sleep-SUBJ      well  
 「あなた方がよく寝るように。」

## 6. 健康・様子伺いの言葉

ここで言う健康・様子伺いの言葉とは、「ご機嫌いかがですか」(英 How are you?) とか、あるいは簡略的に「やあ」(英 Hi!) に当たる表現である。ニョロ語には形式度の違いに応じて様々な表現がある。

最も普通の表現は(14)である。be 動詞-li を用い、まさに英語の How are you? に当たるものである。(15)にその対応を、そして(16)に会話例を示す。(16.B) に-yo 「そこ(で)」という接語が出てくるが、これは「あなたのいる所で」という意味である。なお、(14)、(15)は最も普通の表現とはいえ、その実、簡易的な言い回しであり、通常、親しみと尊敬を表す親称名は用いられない。

- (14) a. [1 人に対して]  
 Oli ó:tá?  
 o-li                      o-ta  
 you(sg.)-are      you(sg.)-how  
 「あなたのご機嫌いかがですか。」
- b. [複数の人に対して]  
 Muli mútá?  
 mu-li                      mu-ta  
 you(pl.)-are      you(pl.)-how  
 「あなた方はご機嫌いかがですか。」
- (15) a. [1 人の人が]  
 Ndi kurú:ngî.

n-li kurungi

I-am fine

「私は元気です。」

b. [複数の人が]

Tuli kurú:ngî.

tu-li kurungi

we-are fine

「私たちは元気です。」

(16) A Oli ó:tâ?

「あなたのご機嫌いかがですか。」

B Ndi kurú:ngî.

「私は元気です。」

Î:we, olíyó ó:tâ?

iwe o-li-yo o-ta

You(sg.) you(sg.)-are-there you(sg.)-how

「あなたのご機嫌いかがですか。」

A Ndi kurú:ngî.

「私は元気です。」

(17)は(14)の変形であるが、日常よく用いられるものである。(17)では主語が「あなた方」となっている点、そして *ô:ku* 「そこ」という指示詞が付け加わっていることに注意しよう。*ô:ku* 「そこ」というのは、「あなた方の家庭において」ということである。(18)がその返答である。

(17) Muli mútá ô:ku?

mu-li mu-ta oku

you(pl.)-are you(pl.)-how there

「あなた方は、ご家族はいかがですか。」

(18) Tuli kurú:ngî.

「私たちは元気です。」

少し表現がくだけるが、(19.A)のような表現もある。*amakûru* 「ニュース」という用語を用い、「何か変わったことはあるか」と尋ねているわけである。直訳的意味としては、「どこにニュースはあるか」である。*amakûru* 「ニュース」は「何か変わったこと」の意味で用いている。(19.A)における *ga-li* の主語接頭辞 *ga-* は *amakûru* 「ニュース」を受けている。返事は(19.B)である。(19.B)にも *-aha* が出てくるが、これは「どこ」ではなく「(何)も」ない」である。声調が違う別の語彙項目である。

(19) A Amakúru gar'áhâ?

amakuru ga-li aha  
news they-are where

「お変わりありませんか。」

B Gâ:ha.

ga-aha  
they-nothing

「(何も)ありません。」

(19.A)で使われている amakúru 「ニュース」の代りに (20) のように ebigâ:mbo 「言葉(pl.)」を用いることも可能である。言いたいことは同じである。「何か言葉(静いなど)があるか」と尋ねるわけである。返事は、(19.B)と同じく「ありません」である。(20.B)は、主語接頭辞が ebigâ:mbo 「言葉(pl.)」に一致して bi-になっている以外、(19.B)と同じである。

(20) A Ebigâ:mbo bir'áhâ?

ebigambo bi-ri aha  
words they-are where

「お変わりありませんか。」

B Byâ:ha.

bi-aha  
they-nothing

「(何も)ありません。」

(19), (20)は誰の様子がどうかは聞いていないが、(21)のように具体的に「あなたはどうですか」とか「あなた方はどうですか」と聞くこともできる。(21)は構文としては関係節になっている。「あなた(方)が見た、経験したものは？」と聞いているわけである。(22)が返答である。(21.a)は1人の人に聞いているが、答える方は、通常自分の家族のことも勘案して返答する。(22.a)で owâ:nyu 「あなた方の所」となっている所以である。(22.b)の harú:ngí 「よい所」というのは述語であり、主語は「我々の所」であるが、これは省略されている。

(21) a. [1人に対して]

Ag'o:boínê?  
aga o-bon-ire  
those.which you(sg.)-see-PERF

「あなた、お変わりありませんか。」

b. [複数の人に対して]

Aga muboínê?

aga mu-bon-ire  
those.which you(pl.)-see-PERF

「あなた方、お変わりありませんか。」

(22) a. Busáyô. Rû:ndi, owâ:nyu?

busa-yo rundi owa-anyu  
nothing-there but at.place-your(pl.)

「(変わり)は 何もありません。あなた方の所はいかがですか。」

b. Busáyô. Harú:ngî.

busa-yo ha-rungi  
nothing-there place-good

「(変わり)は 何もありません。いいです。」

(23)は、上記の応用である。直訳的には「あなた(方)が見た、経験したものはどこにあるか」である。主語と述語が倒置されている。(24)が会話例である。Aの返事で Halíyó obusí:nge.と言っているのは直訳的には、「われわれの所には平和がある」という意味である。

(23) a. [1 人に対して]

Bir'áhá ebyo:boínê?

bi-ri-aha ebi o-bon-ire  
they-are-where those.which you(sg.)-see-PERF

「あなた、何かお変わりありませんか。」

b. [複数の人に対して]

Bir'áhá ebi muboínê?

bi-ri-aha ebi mu-bon-ire  
they-are-where those.which you(pl.)-see-PERF

「あなた方、何かお変わりありませんか。」

(24) A Bir'áhá ebyo:boínê?

「あなた、何かお変わりありませんか。」

B Byâ:ha. Rû:ndi eby'o:boiné owâ:nyu?

「ありません。そしてあなたの所はどうですか。」

A Halíyó obusí:nge.

ha-li-yo obusinge  
place-is-there peace

「安寧です。」

(25)は動詞が-bon-「見る」から-hu:rr-「聞く」に変わっただけである。(26)がの会話例である。

(25) a. [1 人に対して]

Bir'áhá ebyo:hulí:rê?

bi-ri-aha            ebi                    o-hu:rr-ire  
they-are-where    those.which        you(sg.)-hear-PERF

「あなた，何かお変わりありませんか。」

b. [複数の人に対して]

Bir'áhá ebi muhulí:rê?

bi-ri-aha            ebi                    mu-hu:rr-ire  
they-are-where    those.which        you(pl.)-hear-PERF

「あなた方，何かお変わりありませんか。」

(26) A Bir'áhá ebyo:hulí:rê?

「あなたお変わりありませんか（＝ご機嫌いかがですか）。」

B Byâ:ha.

「変わりません（＝いいです）。」

(27)は今までの応用である。(28)は会話例である。

(27) a. [1 人に対して]

Makúru kî, ag'o:hulí:rê?

makuru        ki                    aga                    o-hu:rr-ire  
news            what.kind.of        those.which        you(sg.)-hear-PERF

「あなた，何かお変わりありませんか。」

b. [複数の人に対して]

Makúru kî, aga muhulí:rê?

makuru        ki                    aga                    mu-hu:rr-ire  
news            what.kind.of        those.which        you(pl.)-hear-PERF

「あなた方，何かお変わりありませんか。」

(28) A Makúru kî, ag'o:hulí:rê?

「あなたご機嫌いかがですか。」

B Gâ:ha. Rû:ndi owâ:nyu?

「いいです。あなたの家はどうですか。」

A Gâ:ha.

「いいです。」

(29)も今までの応用である。(30)は会話例である。Ti:nyíne「私は持っていない」の目的語が省略されているが、これは強いて言うと「何か変わったこと」(ebi mboínê)である。

(29) a. [1 人に対して]

Ebyo:boínê?

ebi o-bon-ire

those.which you(sg.)-see-PERF

「あなた、何かお変わりありませんか。」

b. [複数の人に対して]

Ebi muboínê?

ebi mu-bon-ire

those.which you(pl.)-see-PERF

「あなた方、何かお変わりありませんか。」

(30) A Ebyo:boínê?

「あなたご機嫌いかがですか。」

B Byâ:ha. Rú:di î:we?

「いいです。そして、あなたは。」

A Ti:nyíne.

「何もありません(=いいです)。」

## 7. 別れの挨拶

別れの挨拶とは、日本語の「さようなら」「ごきげんよう」に当たるものである。出発する人と残る人がいる場合、先に言葉を発するのは、通常、出発する人である。以下、(31)、(32)は、家族、とりわけ父親が仕事に出かける場合に家族間で用いられる挨拶表現である。(31)は出発する人が言う言葉、そして(32)は残る人が言う言葉である。どちらも同じ動詞-si:b-「時間を過ごす」が用いられているのは、家族間で同じ時間を共有したいという欲求の現れであろう。動詞の形としては希望を表す接続法が用いられている。

(31) a. [1 人に対して]

Osi:bé kurú:ngî!

o-si:b-e kurungi

you(sg.)-spend.time-SUBJ well

「あなたが有意義に時間を過ごしますように。」

b. [複数の人に対して]

Musí:bé kurú:ngî!

Mu-si:b-e                                kurungi  
 you(pl.)-spend.time-SUBJ        well  
 「あなた方が有意義に時間を過ごしますように。」

## (32) a. [1 人に対して]

Náiwe, osí:bé kurú:ngî!  
 na            iwe            o-si:b-e                                kurungi  
 and          you(sg.)        you(sg.)-spend.time-SUBJ        well  
 「あなたも有意義に時間を過ごしますように。」

## b. [複数の人に対して]

Náinywe, musí:bé kurú:ngî!  
 na            inywe            mu-si:b-e                                kurungi  
 and          you(pl.)        you(pl.)-spend.time-SUBJ        well  
 「あなた方も有意義に時間を過ごしますように。」

なお(31)に対する返答は、日本語の「行ってらっしゃい」のように、行く人の無事を願う表現もある(33参照)。(33)で用いられている動詞は-gend-「行く、出発する」で、変化形としては(31)、(32)同様、希望を表す接続法が用いられている。

## (33) a. [1 人に対して]

Náiwe, ogé:ndé kurú:ngî!  
 na            iwe            o-gend-e                                kurungi  
 and          you(sg.)        you(sg.)-go-SUBJ        well  
 「あなたも気をつけて行ってらっしゃい。」

## b. [複数の人に対して]

Náinywe, mugé:ndé kurú:ngî!  
 na            inywe            mu-gend-e                                kurungi  
 and          you(pl.)        you(pl.)-go-SUBJ        well  
 「あなた方も気をつけて行ってらっしゃい。」

日常の別れではなく旅に出る場合など、出発する人がしばらく留守にする場合は、(34)のような表現が用いられる。(34)では相手に対して-ikar-「留まる、生きる」という動詞が使われている。(34)に対する返答は(33)と同じものになる。

## (34) a. [1 人に対して]

Oikálé kurú:ngî!  
 o-ikar-e                                kurungi  
 you(sg.)-stay-SUBJ        well  
 「あなたが無事留まりますように。」

## b. [複数の人に対して]

Mwikálé kurú:ngî!

mu-ikar-e kurungi

you(pl.)-stay-SUBJ well

「あなた方が無事留まりますように。」

別れの挨拶表現には、「もう行かなくっちゃ」とか「じゃあ、行くからね」のような、簡略的なものもある。(35)がそうである。それに対する返答は(36)である。(37)に会話例を掲げる。

## (35) a. [1 人の人が]

Ka ngé:ndé!

ka n-gend-e

EXCL I-go-SUBJ

「私もう行きますので。」

## b. [複数の人が]

Ka tugé:ndé!

ka tu-gend-e

EXCL we-go-SUBJ

「私たちもう行きますので。」

## (36) Kâle.

オッキー。

## (37) A Ka ngé:ndé, Amô:ti!

「私もう行きますので、アモーティ。」

## B Kâle, Akî:ki.

「オッキー、アキーキ。」

別れの挨拶には、神の名を出すものもある。ニョロ語で神は Mukâma (あるいは Ruhâ:nga) であるが、これは本来ニョロ族の伝統的神のことである。しかしながら現在のニョロ人が Mukâma (あるいは Ruhâ:nga) の名を口にする時、それはもはや伝統的神ではなくキリスト教の神である。伝統的神はキリスト教によって徹底的に貶められてしまったのである。(38)の表現は英語の May God protect you. に当たるが、これは必ずしも英語の表現をニョロ語に翻訳したものではない。ニョロ語本来の表現である。(38)が出発する人が言う言葉、(39)が残る人が言う言葉である。用いられている動詞は-lind-「保護する」で、変化形は希望を表す接続法である。

## (38) a. [1 人に対して]



Mukáma akulí:ndê!  
 Mukama a-ku-lind-e  
 God he-you(sg.)-protect-SUBJ  
 「神があなたを保護しますように。」

b. [複数の人に対して]

Mukáma abalí:ndê!  
 Mukama a-ba-lind-e  
 God he-you(pl.)-protect-SUBJ  
 「神があなた方を保護しますように。」

(39) a. [1 人に対して]

Náiwé, Mukáma akulí:ndê!  
 na iwe Mukama a-ku-lind-e  
 and you(sg.) God he-you(sg.)-protect-SUBJ  
 「そしてあなたも神が保護しますように。」

b. [複数の人に対して]

Náinywé, Mukáma abalí:ndê!  
 na inywe Mukama a-ba-lind-e  
 and you(pl.) God he-you(pl.)-protect-SUBJ  
 「そしてあなた方も神が保護しますように。」

別れる時、「また会いましょう」という表現もよく使われる。(40.a)がそうである。ニョロ語には「未来」は「近い未来」と「遠い未来」の時制の区別があるが、ここでは「近い未来」が用いられている。もし「近い未来」でなく「遠い未来」にすると、今度いつ会えるか分からないけれど、という不確かなことになる。(40.b)の表現は、まだ議論が終わらず、また近いうちに続きをやりましょうという意味である。be 動詞-ba-の部分に近い未来形とし、そのあと現在進行形を続けるという複合的動詞構造をしている。英語では We will be seeing each other となるべきものである。

(40) a. Tura:rorangâna.

tu-ra:-ror-angan-a  
 we-NFUT-see-RECIPR-FIN  
 「われわれ、また会いましょう。」

b. Tura:ba nituroranganâ.

tu-ra:-ba-a ni-tu-ror-angan-a  
 we-NFUT-be-FIN PROG-we-see-RECIPR-FIN  
 「われわれ、また会っています。」

## 8. 人に対する言付け

「～によろしく」に当たる表現は、ニョロ語では用いる動詞と人称代名詞によりいくつかの形式が可能である。(41.a)は直訳的には「あなたは彼らに挨拶をするように」ということである。ここで「彼ら」というのは「あなたが訪れる所の人たち」のことである。もし特定の1人によろしくと言うのなら-ba-「彼ら」の代わりに-mu-「彼(女)」とすることができる。もちろん、人称代名詞の代わりに人名を用いることもできる。その場合は、代名詞-ba-「彼ら」や-mu-「彼(女)」を用いずに、動詞形のあとに目的語として人名を付ける。

(41.b)は、(41.a)に「私のために(代わりに)」という表現が加わっている。「私から(よろしく)」と言うことであるが、直訳的には、「あなたは私のために彼らに挨拶をするように」ということである。(41.c)は(41.b)の-ramuky-「挨拶をする」の代わりに-ror-「見る、会う」を用いたものである。ただこの動詞は本来、挨拶をするという意味ではないので、「私のために」を除いた(41.d)のような表現は非文法的になる。

- (41) a. Obaramúkyê!  
o-ba-ramuky-e  
you(sg.)-them-greet-SUBJ  
「彼らによろしくお伝えください。」
- b. Obandamukízê!  
o-ba-n-ramuky-ir-e  
you(sg.)-them-me-greet-for-SUBJ  
「彼らに私からよろしくお伝えください。」
- c. Obandó:rrê!  
o-ba-n-ror-ir-e  
you(sg.)-them-me-see-for-SUBJ  
「彼らに私からよろしくお伝えください。」
- d. \*Obarórê!  
o-ba-ror-e  
you(sg.)-them-see-SUBJ  
「彼らによろしくお伝えください。」

## 9. 人の家を訪れた時の挨拶

人の家を訪れた時、日本語では「ごめんください」と言うが、ニョロ語では、家の中に人がいることが分かっている場合と、いるかどうか分からない場合とでは言い方が異なる。(42)は、人が中にいることが分かっている場合、そして(43)、

(44)は人がいるかどうか分からない場合である。いずれも対話形式となっている。(42)のAの問いに対して、Bの返答は1), 2), 3)のような可能性がある。

(42) A Aba:kûnu, mulíyô?

aba-kunumu-li-yo

those-this.place you(pl.)-are-there

「家の方、あなた方はいますか。」

B 1) É:go, tulíyô.

ego tu-li-yo

yes we-are-there

「はい、私たちはいます。」

2) Tulíyô, íja !

tu-li-yo íja

we-are-there come

「われわれはいます。来てください。」

3) Tulíyô, íjá kûnu!

tu-li-yo íja kûnu

we-are-there come this.way

「われわれはいます。こっちに来てください。」

(43) A Nta:hémû?

n-ta:h-e-mu

I-come.in-SUBJ-inside

「私、中に入っていいですか。」

B É:go, ta:hámû.

ego ta:h-a-mu

yes come.in-IMP-inside

「はい、中に入りなさい。」

(44) A Nyijê?

n-ij-e

I-come-SUBJ

「(そちらに) 行ってもいいですか。」

B Íja!

come

「来なさい。」

なお、最近ではスワヒリ語の人の家を訪ねた時の挨拶語 *hodi* 「ごめんください」がニョロ語に入り、*kódi* として用いられることもしばしばである、返事もスワヒリ語の *karibu* 「お入りください」である。

(45) A Kódi.

「ごめんください。」

B. Karíbu.

「お入りください。」

## 10. 歓迎の挨拶

友達などが訪ねてきた場合の歓迎の言葉は(46)のようである。(46)で用いられている動詞は-ij-「来る」であるが、その前に付く-ka-の意味がよくわからない。-ka-は様々な用途で用いられるが、ここでは「可能」の意味のようである。(46.a)は、「あなた来ていいです」が直訳的な意味のようである。ただ主語接頭辞のo-「あなた」が付いていないので、これは一種の命令形ではないかと思われる(-IMP(?)としてあるのは不確かであるという意味である)。(46.b)のように、来る人が複数の場合は主語接頭辞の-mu-「あなた方」が付く。

(46) a. [1 人に対して]

Káije!

ka-ij-e

POSS(?)-come-IMP(?)

「あなた、よくいらっしゃいました。」

b. [複数の人に対して]

Mukáije!

mu-ka-ij-e

you(pl.)-POSS(?)-come-IMP(?)

「あなた方、よくいらっしゃいました。」

(46) に対する返答は(47)のようである。用いられている動詞は-sang-「(場所で) 見つける, 会う」の受身形-sang-w-「(場所で)見つけられる, 会われる」である。ここでは受身形で用いられているので、あなた(方)が見つかることで嬉しいということである。

(47) a. [1 人に対して]

Kasâ:ngwe!

ka-sang-w-e

POSS(?)-find-PASS-IMP(?)

「あなたに会えてよかった。」

b. [複数の人に対して]

Mukasâ:ngwe!

mu-ka-sang-w-e  
 you(pl.)-POSS(?)-find-PASS-IMP(?)  
 「あなた方に会えてよかった。」

人の訪問を歓迎する表現は感謝を表す webâle 「あなた，ありがとう」， mwebâle 「あなた方，ありがとう」を用いても表すことができる（感謝の表現については13節参照）。

- (48) a. [1 人に対して]  
 Webâle kwî:ja!  
 thank.you(sg.) coming  
 「あなた，来てくださりありがとう。」
- b. [複数の人に対して]  
 Mwebâle kwî:ja!  
 thank.you(pl.) coming  
 「あなた方，来てくださりありがとう。」

(48)に対する返答は(49)のようである。あるいは(50)のような返答もある。(49)の時制は「近過去完了状態形」である。

- (49) a. [1 人の人が]  
 Kâle, nyizîrê.  
 kale n-ij-ire  
 OK I-come-PERF  
 「はい，私は来ました。」
- b. [複数の人が]  
 Kâle, twizîrê.  
 kale tu-ij-ire  
 OK we-come-PERF  
 「はい，私たちは来ました。」
- (50) a. [1 人の人に]  
 1) Webâle kusâ:ngwa.  
 thank.you(sg.) being.found  
 「会えてよかった。」
- 2) Webâle kasâ:ngwe.  
 webale ka-sang-w-e  
 thank.you(sg.) POSS(?)-find-PASS-IMP(?)  
 「会えてよかった。」

## b. [複数の人に]

1) Mwebále kusâ:ngwa.  
 thank.you(pl.) being.found  
 「会えてよかった。」

2) Mwebále mukasâ:ngwe.  
 mwebale mu-ka-sang-w-e  
 thank.you(pl.) you(pl.)-POSS(?) -find-IMP(?)  
 「会えてよかった。」

(51)はお客が来てくれて嬉しいという表現で、動詞-semererw-「嬉しい」が使われている。ただ、「(人の)ために、(人の)のおかげで」を意味する「適用」の接尾辞-ir-/er-<sup>5</sup>が入っていて、(51.a), (51.b)において、それぞれ「あなた」「あなた方」がその目的語として挿入されている。あるいは(52)のように「あなた(方)に会えて」と表現する場合もある。(53), (54)に会話例を示す。なお、ここで用いられている動詞の変化形は「近過去未完了形」である。これは近い過去に物事が始まり、それが完了せず現在も続いていることを表す。ここの状況で言えば、「嬉しい」ということがあなたを見た瞬間に始まり、嬉しいということが完了せず現在も続いているという意味である。

## (51) a. [1 人の人に]

Twakusemerê:rrwa.  
 tu-a-ku-semererw-ir-a  
 we-PAST-you(sg.)-be.happy-because.of-FIN  
 「私たちはあなたのおかげで嬉しい。」

## b. [複数の人に]

Twabasemerê:rrwa.  
 tu-a-ba-semererw-ir-a  
 we-PAST-you(pl.)-be.happy-because.of-FIN  
 「私たちはあなた方のおかげで嬉しい。」

## (52) a. [1 人の人に]

Twasemerérwa kukurôra.  
 tu-a-semererw-a ku-ku-ror-a  
 we-PAST-be.happy-FIN INF-you(sg.)-see-FIN  
 「私たちはあなたに会えて嬉しい。」

## b. [複数の人に]

<sup>5</sup> 適用の接尾辞は-ir-/er-の母音調和を起こす。すなわち、その前の母音が/i, u, a/の場合は-ir-, /e, o/の場合は-er-である。

Twasemerérwa kubarôra.

tu-a-semererw-a

ku-ba-ror-a

we-PAST-be.happy-FIN INF-you(pl.)-see-FIN

「私たちはあなた方に会えて嬉しい。」

(53) A Twakusemerê:rrwa.

「私たちはあなたのおかげで嬉しい。」

B Nanyówe, nabasemerê:rrwa.

「私もまたあなた方のおかげで嬉しい。」

(54) A Twasemerérwa kukurôra.

「私たちはあなたに会えて嬉しい。」

B Nanyówe, nasemerérwa kubarôra.

「私もまたあなた方に会えて嬉しい。」

## 11. 家に帰って来た家族にかける言葉

ここでは家に帰ってきた家族にかける言葉を示す。日本語の「お帰りなさい」にあたる表現である。(55)は旅行から帰った家族に、家に留まった家族がかける言葉である。-yo「そこ(から)」というのは、行った先のことである。また(55.a)は、仕事から帰った夫に、妻がかける労いの言葉でもある。(55)に対する返答は(56)である。(56)では-rug-「帰る」という動詞の「近過去完了状態形」が用いられている。また(57)のような労いの言葉もあるが、返答は(56)と同じである。

(55) a. [1人の人に]

Webáléyo!

webale-yo

thank.you(sg.)-from.there

「あなた、お帰りなさい。」

b. [複数の人に]

Mwebáléyo!

mwebale-yo

thank.you(pl.)-from.there

「あなた方、お帰りなさい。」

(56) a. [1人の人が]

Kále, ndugiréyo.

kale n-rug-ire-yo

OK I-come.back-PERF-from.there

「そう、私は帰ってきました。」

b. [複数の人が]

Kále, turugiréyo.

kale tu-rug-ire-yo

OK we-come.back-PERF-from.there

「そう、私たちは帰ってきました。」

(57) a. [1 人の人に]

Webále kurugáyo!

webale ku-rug-a-yo

thank.you(sg.) INF-come.back-FIN-from.there

「あなた、お帰りなさい。」

b. [複数の人に]

Mwebále kurugáyo!

mwebale ku-rug-a-yo

thank.you(pl.) INF-come.back-FIN-from.there

「あなた方、お帰りなさい。」

(58)は学校、旅行などから家に帰った子供に親がかける言葉である。返答は(56)と同じである。(58)で用いられている時制は「近過去未完了形」である。これは、近い過去に帰るといふ行為が起こって、それがまだ続いているということを示す。ここではまだ完全に旅装を解いていないという意味である(たとえば学校から帰ってきた小学生などがまだカバンをしょっているなど)。ただ(58)の表現はよく用いられてはいるが、あまり丁寧ではないと思われる。同じ意味内容であるが、(59)のように時制を「近過去完了状態形」にした方が丁寧であると考えられているようである。こちらは家に帰ってきて、もう落ち着いているというニュアンスがある。いずれにしても返事は(56)の「近過去完了状態形」で答えるのが普通である。

(58) a. [1 人の人に]

Warugáyo?

u-a-rug-a-yo

you(sg.)-PAST-come.back-FIN-from.there

「あなた帰ったの？」

b. [複数の人に]

Mwarugáyo?

mu-a-rug-a-yo

you(pl.)-PAST-come.back-FIN-from.there

「あなた方帰ったの？」

(59) a. [1 人の人に]

Orugiréyo?



o-rug-ire-yo  
 you(sg.)-come.back-PERF-from.there  
 「あなた帰ってきたの？」

- b. [複数の人に]  
 Murugíréyo ?  
 mu-rug-ire-yo  
 you(pl.)-come.back-PERF-from.there  
 「あなた方帰ってきたの？」

## 12. お願いの言葉

(60.a-f)に挙げたのは、すべてお願いの言葉、日本語の「どうぞ」とか「どうか」に当たる表現である。数が多いのに驚かされる。意味はほとんど同じである。

語源は分からないものが多い。かろうじて分かるのは(60.d)である。これは普通の動詞の変化形をしている。ここでは「近過去完了状態形」である。(60.b)は「少年」を意味する omwó:jô の複数形 abó:jô から冠詞の a-を除いた形と同じである。名詞は通常語頭部分に母音 1 個から成る冠詞を有するが、呼びかけの場合などでは冠詞は用いられない。つまり(60.b)は「少年たちよ」と呼びかけているのと同じ形なのである。(60.c)の î:we, î:nywe はそれぞれ「あなた」, 「あなた方」であるが, nya:búra の部分の由来が分からない。nya:búra は, î:we「あなた」あるいは î:nywe 「あなた方」と一緒にしか用いられない。(61)以下で用例を見ていく。

- (60) a. câ:li.  
 b. bó:jô.  
 c. [1 人の人に] Nya:búra î:we!  
    [複数の人に] Nya:búra î:nywe!  
 d. [1 人の人に] Nkwesengerí:zê.  
                   n-ku-esengerez-ir-ire  
                   I-you(sg.)-request-to-PERF  
                   「私はあなたにお願いします。」  
    [複数の人に] Mbe:sengerí:zê.  
                   n-ba-esengerez-ir-ire  
                   I-you(pl.)-request-to-PERF  
                   「私はあなた方にお願いします。」  
 e. ha:kíri.  
 f. bâ:mbi.  
 (61) Câ:li nyâ.mba!

ca:li        n-amb-a  
 please     me-help-IMP  
 「どうぞ、私を助けてください。」

- (62) Bó:jô, nko:nyéra kutéma omúti!  
 bo:jo      n-ko:ny-er-a            ku-tem-a            omuti  
 please    me-assist-for-IMP    INF-cut-FIN        tree  
 「どうか私が木を切るのを手伝ってください。」

- (63) Nya:búra î:we, oté:bwê!  
 nya:bura    i:we            o-ta-ebw-e  
 ?            you(sg.)      you(sg.)-NEG-forget-SUBJ  
 「あなた、どうか忘れないで。」

- (64) Nkwesengerí:zé, nde:téra amáizi!  
 n-ku-esengerez-ir-ire            n-re:t-er-a            amaizi  
 I-you(sg.)-request-to-PERF      me-bring-for-IMP      water  
 「どうぞ私に水を持ってきてください。」

- (65) Ha:kíri mpá ekitakûli!  
 ha:kiri      m-pa-a            ekitakuli  
 please     me-give-IMP      sweet.potatoes  
 「どうぞ私にサツマイモをください。」

- (66) Bâ:mbi oijê!  
 bambi      o-ij-e  
 please     you(sg.)-come-SUBJ  
 「どうか来てください。」

### 13. 感謝の言葉

日本語の「ありがとう（ございます）」に当たる言葉は、ニョロ語では相手の数と人称によって形が変わる。

- (67) a. [1人の相手に対して]      Webâle.  
 b. [複数の相手に対して]      Mwebâle.  
 c. [彼（女）に対して]          Ayebâle.  
 d. [彼（女）らに対して]      Be:bâle.

形が数と人称によって変わるところを見ると、これらは動詞の変化形であることは間違いない。主語接頭辞の部分は完全に規則的である。これは恐らく **-bar-**「数える」の再帰形 **-e-bar-**「自らを数える」を接続法で用いているのではないかと思

われる<sup>6</sup>。すなわち、相手に対して「ありがとう」と言うのは、相手に「自分を数えろ、自らを重要視しろ」と言っているのではないかと思われるのである。

(68)	sg.	pl.
2ndPer	webâle o-e-bar-e you(sg.)-self-count-SUBJ	mwebâle mu-e-bar-e you(pl.)-self-count-SUBJ
3rdPer	ayebâle a-e-bar-e he/she-self-count-SUBJ	be:bâle ba-e-bar-e they-self-count-SUBJ

(68)の分析には1つだけ問題点がある。それは声調が合わないのである。接続法ではその声調は webâle, mwebâle ではなく、webâlê, mwebâlê (あるいは webâle, mwebâle) となるのである。理由は分からないが、webâlê, mwebâlê から webâle, mwebâle へと変化したのかもしれない。

いずれにしても、この言葉は非常に広い適用範囲を持つ。様々な感謝だけでなく、労いや、次節で見るように「おめでとう」などにも用いられるのである。以下、(69)に幾つかの感謝の表現を示す。(69.c)はAとBの会話である。

- (69) a. Webâle múnô.  
「(あなた) 大変ありがとうございます。」
- b. Webâle kukôra.  
「(あなた) 働いてくれてありがとう。」
- c. A Webâle kuvúga motóka kurú:ngî.  
「(あなた) 車を上手に運転してくれてありがとう。」
- B Webâle kusí:ma.  
「(あなた) 感謝してくれてありがとう。」

#### 14. 詫びの言葉

「ごめんなさい」「すみません」に当たるのは(70)である。(70.a)は、道で知らない人に声をかける場合にも用いられる。

- (70) a. Nganyíra!  
n-ganyir-a  
me-forgive-IMP

<sup>6</sup> 私の主インフォーマントはこの案には懐疑的であるが、そうやって彼に分析の代案があるわけではない。

「私を許してください。」

b. Ninsábá ekiganyíro.

ni-n-sab-a ekiganyiro  
PROG-I-ask-FIN forgiveness

「私は許しを請います。」

c. Ninsábá onganyírê.

ni-n-sab-a o-n-ganyir-e  
PROG-I-ask-FIN you(sg.)-me-forgive-SUBJ

「私を許すことをお願いします。」

許しを請う言葉に対して、「大したことはない」と、許す言葉は(71)のようである。(71.a-b)は丁寧な表現であるが、(71.c-d)になるに従ってカジュアルになる。

(71) a. Tikí:ne nsô:nga.

ti-ki-ine nso:nga  
not-it-have problem

「問題ありません。」

b. Busáhó nsô:nga.

Busa-ho nso:nga  
nothing-here problem

「問題ありません。」

c. Otáfwá:yô!

o-ta-fu-a-yo  
you(sg.)-NEG-die-FIN-there

「気にするな。」

d. Kâle.

「オッケー。」

### 15. 不幸に逢った人にかかる悔やみの言葉

不幸に逢った人にかかる最も普通の言葉は(72)である。ここでは-bon-「見る」という動詞が使われている。この動詞は、同義語の-ror-「見る」とは異なって、しばしば悪いものを見るということを含意する。ここでは不幸を経験するという意味である。文の初頭にある小辞 ka は一種の感嘆を表すものである。日本語の「何と！」に近い。全体として不幸に逢った人に対する強い同情の念を示している。

(72) a. [1 人の人に対して]

K'o:boinê!

ka o-bon-ire

EXCL you(sg.)-see-PERF

「あなたは何とすることを見たのでしょうか（＝お気の毒様）。」

b. [複数の人に対して]

Ka muboínê!

ka mu-bon-ire

EXCL you(pl.)-see-PERF

「あなた方は何とすることを見たのでしょうか（＝お気の毒様）。」

(72)の表現は様々な状況に応じて用いられる。(73.a)は病気の人に対する見舞い時、(73.b)は人、特に家族を亡くした時、(73.c)は事故や災難に遭った時、(73.d)は大災難や人の死に直面した人にかける言葉である。

(73) a. K'o:bóiné kurwâ:ra!

「病気、お見舞い申し上げます。」 cf. kurwâ:ra 「病気である」

b. K'o:bóiné kufwê:rwa!

「ご愁傷さます。」 cf. kufwê:rwa 「死なれる」

c. Ka mubóiné ezibibu, bá.ntu î:nywe!

「みな様、災難お見舞い申し上げます。」 cf. ezibibu 「災難、事故」

d. Ka mubóiné i:hâno!

「大災難お見舞い申し上げます。」 cf. i:hâno 「大災難、大事故」

(74)に2人の人の会話例を掲げる。見舞いの言葉に対する返事であるが、ニョロ語では「私は見ました（経験しました）」と言う。間隔としては、「実はそうなんですよ」「いやあ、大変でした」ということなのであろう。

(74) A K'o:boínê!

「お気の毒様。」

B Mboínê.

n-bon-ire

I-see-PERF

「私は見ました（経験しました）。」

見舞いの言葉のかけ方はあと3つある。(75)と(76)は表現としては基本的には(72)と同じである。ただ用いられている動詞と時制が異なる。(75)は相変わらず動詞は-ror-「見る」であるが、時制は「近過去未完了形」である。近過去未完了形というのは、10節、11節で述べたように、昨日、今日など近い過去に起こり、それがまだ完了しておらず続いていることを表す時制である。(76)は、時制は(75)と

同じ「近過去未完了形」であるが、動詞が-tung-「持つ」となっている。i:hâno「不幸」を-tung-「持つ」ということで、「不幸に逢う」を意味する。

(75) a. [1 人の人に対して]

Ka warórá i:hâno!

ka o-a-ror-a i:hano

EXCL you(sg.)-PAST-see-FIN misfortune

「あなたは何と言う災難を見たのでしょうか。」

b. [複数の人に対して]

Ka mwarórá i:hâno!

ka mu-a-ror-a i:hano

EXCL you(pl.)-PAST-see-FIN misfortune

「あなた方は何と言う災難を見たのでしょうか。」

(76) a. [1 人の人に対して]

Ka watú:ngá i:hâno!

ka o-a-tung-a i:hano

EXCL you(sg.)-PAST-have-FIN misfortune

「あなたは何と言う災難に遭ったのでしょうか。」

b. [複数の人に対して]

Ka mwatú:ngá i:hâno!

ka mu-a-tung-a i:hano

EXCL you(pl.)-PAST-have-FIN misfortune

「あなた方は何と言う災難に遭ったのでしょうか。」

(77)は少し砕けた表現である。(78)に会話例を掲げておく。(78.B)の「私に何ができますか」と言うのは、「仕方ないじゃないですか」という意味である。

(77) Ka kíbí!

ka kibi

EXCL bad.thing

「何とひどい。」

(78) A Ka kíbí, Akî:ki!

「何とひどい、アキーキ。」

B Nda:korá kî, Amô:ti?

n-ra:-kor-a ki Amo:ti

I-NFUT-do-FIN what Amooti

「私に何ができますか（仕方ないじゃないですか）、アモーティ。」

## 16. 成功した人にかかる祝いの言葉

「おめでとう」と、成功した人にかかる言葉には様々なものがあるが、表現自体は「ありがとう」と同じものである。

(79) a. [1 人の人に対して]

Webâle!

「あなた、おめでとうございます。」

b. [複数の人に対して]

Mwebâle!

「あなた方、おめでとうございます。」

(80)に試験に受かった場合にかかる言葉とその返答、そして(81)にサッカーでうまくゴールを決めた人への称賛の言葉とその返答を掲げる。

(80) A Webále kusí:nga ebigêzo!  
 congatulations(you, sg.) passing examinations  
 「試験の合格おめでとうございます。」

B Webále kunsábîra.  
 webale ku-n-sab-ir-a  
 thank.you(sg.) INF-me-pray-for-FIN  
 「私のために祈ってくれてありがとう。」

(81) A Webále kusá:mba omupî:ra!  
 webale kusamba omupi:ra  
 congatulations(you, sg.) kicking ball  
 「ゴール、おめでとうございます。」

B Webále kunsî:ma.  
 webale ku-n-si:m-a  
 thank.you(sg.) INF-me-thank-FIN  
 「私に感謝してくれてありがとう。」

## 17. 子供を無事出産した人への労いの言葉

子供を産むという大役を果たした女性に対する労いの言葉は(82)のようである。ここで用いられている動詞は-e-jun-「自らを助ける」であるが、これは-jun-「防御する、助ける」の再帰形である。すなわち、子供を産むと言うことは、あらゆる苦難を乗り越え、自らを守ることなのである。





(85) A Webále kukôra.

webále                      kukôra  
 thank.you(sg.)          working  
 「あなた働いてくれてありがとう。」

B Webále kusî:ma.

webále                      kusi:ma  
 thank.you(sg.)          thanking  
 「あなた感謝してくれてありがとう。」

(86) A Mwebále kulîma.

webále                      kulima  
 thank.you(pl.)          cultivating  
 「あなた方、耕してくれてありがとう。」

B Mwebále kusî:ma.

webále                      kusi:ma  
 thank.you(pl.)          thanking  
 「あなた方、感謝してくれてありがとう。」

### 19. 猟から帰って来た猟師にかける言葉

猟から帰った場合と、次節の水汲みから帰った場合は、たんに「働いてくれてありがとう」と言うのではなく、特別の表現がある。以下、順に示す。

猟は、最近では出かける人も少なくなったが、それでも表現は残っている。獲物が獲れた場合(87)と獲れなかった場合(88)とがある。(87.a)の *buswá:gu* は動詞 *okuswa.gûra* 「狩猟で得た肉を分配する」から来ている。これは現在、猟から帰ってきた人に、「猟、お疲れさま」という意味で使われるが、元々は獲物を持ち帰った猟師を見て、村人が「肉の分配だ」と叫んだのであろう。それに対する猟師の返答は、まさに *buswagura manyâma* 「肉の分配」である。*buswagura* は、動詞 *okuswa.gûra* の名詞形である。なお、*buswagura* の代わりにその複数形の *maswagura* を用いることもある。(87.b)の「肉、獲物」は *enyâma* の特別の複数形である。*enyâma* は単複同形で強いて複数形にする必要のない語であるが、ここでは接頭辞 *ma-* をつけることによって複数であることを強調している。(88.b)の *bikâ:mba* というのは名詞 *ekikâ:mba* (sg.), *ebikâ:mba* (pl.) から来ている。*ekikâ:mba* (sg.), *ebikâ:mba* (pl.) というのは藪に生える灌木で、その葉が鋭く、これに触れると体に傷がつく。獲物もなく単に擦り傷だけで帰ってきたという意味である。

(87) a. *Buswá:gu.* (あるいは *Maswá:gu.*)

「猟、お疲れさま。」

b. *Buswagura manyâma.*

「肉の分配（＝獲物あり）。」

(88) a. Maswá:gu.

「猟，お疲れさま。」

b. Bikâ:mba.

「ピカンバ（の擦り傷）（＝獲物なし）。」

## 20. 水汲みから帰ってきた人にかける言葉

水汲みは過去も現在も大きな仕事である。伝統的には川や水たまりの水を，食器洗いや飲用に用いてきた。最近では山水を引いて簡易水道をつくる村もあるが，通常，蛇口は村に1つであり，誰かがそこまで水汲みに行かなければならない。水汲みは伝統的に女性の仕事であるが，最近では自転車とポリタンクが普及したため，男性が自転車の後ろにポリタンクを5つも6つも積んで押しながら歩いているのを見かけることもしばしばである。

(89.a)が水汲みから帰ってきた人にかける言葉，(89.b)がそれに対する返答である。(89.a)で-it-「殺す」という動詞が用いられているが，これが水を汲むということは水の流れを断ち切るというところから来ているようである。「それ」ga-が指すのは amáizi「水」である。amáizi「水」という単語自体は(89.a)に出ていないが，代名詞の形が ga-であるため，名詞のクラス対応によって，すぐさまそれが水を差すことを理解することができる（ニョロ語に名詞のクラスがあり，名詞の属するクラスに応じて代名詞が決まっている）。(89.b)の「それ（＝水）をこぼせ」というのは，逆説的表現である。水はそれ程貴重なものであり，もしこぼしてもしてみろ，という意味合いである。

(89) a. Gaitéyo!

ga-it-e-yo

it-kill-IMP-there

「それをそこで殺せ（＝水汲みご苦労さま）。」

b. Gasé:sê!

ga-se:s-e

it-spill-IMP

「それをこぼせ（＝大事に使え）。」

## 21. 食事時の挨拶

ニョロ族は，食事を始めるとき日本語の「いただきます」に当たる言葉は伝統的には何も言わない。ただ最近はキリスト教の影響で神に感謝する言葉を捧げる家族もいる。

食事の後に言われる表現（日本語の「ご馳走様」に当たる）は2つある。(90.a)は最も普通のもので、食べ終えた人が料理をつくってくれた人に述べる感謝の言葉である。特に、夫が妻に言う事が多い。それに対する返事は(90.b)のようである。なお、そこで「あなたも、食べてくれてありがとう」などという言葉が出てくるのは、男性は怒るとしばしば妻の用意する料理を食べることを拒否するからである。これをニョロ語では *okuzíra* と言う(92)。

実際の会話では親称名が用いられるので(91)のようになる。(91.A)で言われる親称名が、料理をしてくれた、例えば自分の妻のものである。

- (90) a. *Webále*                      *kucû:mba*.  
 thank.you(sg.)    cooking  
 「料理をありがとう。」
- b. *Náiwe, webále kúlyâ*.  
*na*        *ive*                      *webale*                      *kulya*  
 and    you(sg.)    thank.you(sg.)    eating  
 「あなたも、食べてくれてありがとう。」
- (91) A *Webále kucû:mba, Adyê:ri*.  
 「ご馳走様でした、アディエリ。」
- B *Náiwe, webále kúlyâ*.  
 「あなたも、食べてくれてありがとう。」
- (92) *okuzíra*                      *ebyokúlyâ*  
 to.refuse.by.anger    food/meal  
 「(気分を害して) 食事を拒否する」

2つ目の食事後の表現は(93)であるが、これは少し儀礼的である。(93.a)は、料理をつくってくれた人への感謝の気持ちを表している。それに対する返答は(93.b)であるが、これが意味するところは、「感謝は要らない、当然のことをしたまです」ということである。「あまり感謝をしすぎると不幸を呼ぶ。そんな暇があったらもっと働いて食べ物を持って帰りなさい。そうすれば私がちゃんと料理をつくってあげるから」という意味である。なお、(93.b)において *be* 動詞に当たる *ali* 「彼は～である」は省略されている。

- (93) a. *Así:ma*                      *mbélé*        *alí:râ*.  
 he.who.thanks    place        at.which.he.eats  
 「人は食べた所で感謝する。」
- b. *Búli*                                      *nku:ngûzi*.  
 then        he.is        badluck-calling.person  
 「しかし(感謝する人は)不幸を呼ぶ。」

## 22. クリスマスの挨拶

ニョロ社会は、少なくとも表面上キリスト教社会であり、クリスマスは重要な出来事である。「クリスマス」はニョロ語では、「キリストの誕生日」(94)、単に「誕生日」(95)、あるいは「重要な日」(96)などと表現される。

(94) a. [1 人の人に対して]

Webále kuhíka hakíró ky'o:kuzá:rwa kwa Krísto!

webale kuhika ha-kiro kya okuza:rwa kwa Krísto  
congratulations(you, sg.) arriving at-day of being.born of Christ  
「クリスマスの到来おめでとうございます。」

b. [複数の人に対して]

Mwebále kuhíka hakíró ky'o:kuzá:rwa kwa Krísto!

mwebale kuhika ha-kiro kya okuza:rwa kwa Krísto  
congratulations(you, pl.) arriving at-day of being.born of Christ  
「クリスマスの到来おめでとうございます。」

(95) a. [1 人の人に対して]

Webále ekíró ky'o:kuzâ:rwa!

webale ekiro kya okuza:rwa  
congratulations(you, sg.) day of being.born  
「クリスマスおめでとうございます。」

b. [複数の人に対して]

Mwebále ekíró ky'o:kuzâ:rwa!

mwebale ekiro kya okuza:rwa  
congratulations(you, pl.) day of being.born  
「クリスマスおめでとうございます。」

(96) a. [1 人の人に対して]

Webále kuhíka hakíró kikûru!

webale kuhika ha-kiro kikuru  
congratulations(you, sg.) arriving at-day important  
「クリスマスの到来おめでとうございます。」

b. [複数の人に対して]

Mwebále kuhíka hakíró kikûru!

Mwebale kuhika ha-kiro kikuru  
congratulations(you, pl.) arriving at-day important  
「クリスマスの到来おめでとうございます。」

## 23. 大晦日，新年の挨拶

大晦日，新年はニョロ社会ではそれほど重要な出来事ではない。それでも人々は新年の挨拶を掛け合う。(97)は大晦日の挨拶，(98)は新年の挨拶である。

- (97) a. [1 人の人に対して]

Webále kumára omwâ:ka!

webale	kumara	omwaka
congratulations(you, sg.)	finishing	year

「一年間ありがとう。」

- b. [複数の人に対して]

Mwebále kumára omwâ:ka!

mwebale	kumara	omwaka
congratulations(you, pl.)	finishing	year

「一年間ありがとう。」

- (98) a. [1 人の人に対して]

Webále omwâ:ka!

congratulations(you, sg.) year

「新年おめでとうございます。」

- b. [複数の人に対して]

Mwebále omwâ:ka!

congratulations(you, pl.) year

「新年おめでとうございます。」

## 24. 誕生日のお祝いの言葉

誕生日のお祝いは，感謝の言葉の応用である。(99.a)と(99.b)の2つの表現がある。

- (99) a. Webále amazâ:rwa!

webale	amaza:rwa
congratulations(you, sg.)	birth

「誕生（日）おめでとう。」

- b. Webále ekíró ky'a.mazâ:rwa!

webale	ekiro	kya	amaza:rwa
congratulations(you, pl.)	day	of	birth

「誕生日おめでとう。」

## 25. 終わりに

本稿では、ニョロ語の挨拶表現をほぼ網羅的に見てきた。もちろん、調査を進めればこれ以外にも出てくるであろうが、とりあえずは十分この言語の挨拶表現を見通すことはできたと思う。特徴的なのは、ニョロ語の挨拶表現が多くの場合、動詞の変化形で表され、それぞれの状況における時制その他の使い方が細やかである点である。また皮肉っぽい表現がしばしば用いられるのも特徴の1つである。

西アフリカの幾つかの社会、例えばセネガルのウォロフ族社会では、人と人が会った時—これはほぼ毎日会っているような人でも—かなりの時間を挨拶に費やす。「あなたはご機嫌いかがですか。」とまず問い、続いて「あなたの奥様はいかがですか。」「あなたのお子さんはいかがですか。」と順々に聞いていく。中には、今生の別れかと思わせるような仰々しいものもある。それは、人にはいつ何が起こるかわからず、その心構えをいつもしておくべきだということを意識的、あるいは無意識的に彼らが常に認識しているということを強く印象づける。確かに町から一歩外に出れば、そこは茫漠とした砂漠あるいは半砂漠地帯で、そこでは人の存在は極めて小さいものに思えてくる。

それに対して、このウガンダのニョロ族は、挨拶にそれ程長い時間を費やすわけではない。二言三言で済むことも多い。それは恐らくニョロ族が住む環境にも関係しているのであろう。鬱蒼とした一次林は、ほとんど失われたとはいえ、回りは木々が多く生い茂り、一面緑の世界である。そして、その緑は乾期にも消えることはない。恐らく人間存在自体に対して、あまり不安感を持っていないのであろう。

本稿は、もちろん以上のような、環境と人間存在の心理との間に、哲学的考察を加えることを目的としたものではない。最初にも述べたように、本稿は、まず何よりもニョロ語の全体的記述の一部を成すものであり、またニョロ語のテキスト化の一部を構成するものである。アフリカ社会における挨拶という重要ではあるが、ほとんど報告のない分野において、本稿の記述が少しでも役に立てば幸いである。

## 参考文献

Kaji, S. in preparation. *A Runyoro Vocabulary*.

Lewis, M. P. (ed.). 2009. *Ethnologue: Languages of the World*, Sixteenth edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com/> (accessed on March 26, 2011.)

## 付録：親称名と呼称タイトル

### 1. 親称名

ニョロ族の人名は、3つの名前からなる。1つは個人名で、これは通常その人の生まれた状況や命名者（主として両親）の気持ちを記録したものである。2つ目はキリスト教名である。ニョロ族の多くはキリスト教徒で洗礼名を持っている。3番目が、ここで言う親称名（ニョロ語: *empâ:ko* sg., pl.）である。これは、通常、子供が生まれた時に両親が誕生名と同時に付ける。この名は、その人に親しみと尊敬を与えるもので、ニョロ族とその南のトーロ族においては文化的に極めて重要なものである（ニョロ人とトーロ人はこの親称名を英語で *pet name* と呼んでいる）。この3つの名前の順番は、通常、例えば *Kajura Sammuel Amooti* のように、誕生名、キリスト教名、親称名の順になる。

親称名の数は全部で12しかない。通常は男女共用であるが、以下(100)で(M)と書いてあるものは男性のみが用いるものである。ただし、12番目の *Okâ:li* は王にしか使用が許されていない。

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| (100) 1. <i>Akî:ki</i> | 7. <i>Atwô:ki</i>     |
| 2. <i>Amô:ti</i>       | 8. <i>Arâ:li</i> (M)  |
| 3. <i>Abbô:ki</i>      | 9. <i>Acâ:li</i> (M)  |
| 4. <i>Abwô:li</i>      | 10. <i>Apû:li</i> (M) |
| 5. <i>Adyê:ri</i>      | 11. <i>Bbála</i> (M)  |
| 6. <i>Atê:nyi</i>      | 12. <i>Okâ:li</i>     |

この親称は挨拶においては重要な役割を果たし、とりわけ親しい人の間では欠かせないものである。もし初対面の場合でも、親しくしたいと思った場合は、まず親称を聞いてから改めて挨拶をする。

### 2. 呼称タイトル

挨拶表現には、親称名以外にタイトルが付く場合がある。これも挨拶表現だけではぶっきらぼうであると判断されるためである。ただし、以下(101)で示されるようなタイトルは、相手に対する礼儀は示すが、親称名のように親しい人間関係を表すわけではない。

- (101) 1. [老人（男）に対して]  
*Mugurûsi.* cf. *omugurûsi* sg., *abagurûsi* pl. 「老人（男）」
2. [老女に対して]  
*Mukaikûru.* cf. *okukaikûru* sg., *abakaikûru* pl. 「老女」

3. [老人（主として男）に対して]  
Muzê:i. cf. omuzê:i sg., abazê:i pl. 「老人一般」<Sw. mzee sg., wazee pl.
4. [若い男性に対して]  
Musigâzi. cf. omusigâzi sg., abasigâzi pl. 「青年」
5. [若い女性に対して]  
Mwisikî. cf. omwisikî sg., abaisikî pl. 「若い女性」
6. [少年に対して]  
Mwó:jô. cf. omwó:jô sg., abó:jô pl. 「少年」
7. [少女に対して]  
Kaisikî. cf. akaisikî sg., obwisikî pl. 「少女」
8. [小さな少年に対して]  
Kó:jô. cf. akó:jô sg., abó:jô pl. 「小さな男の子」
9. [小さな子供たちに対して]  
Batobátô. cf. abatobátô pl. 「小さな子供たち」

(101)の表現は、通常のニョロ語の単語を用いたものである。ただ、通常のニョロ語の単語には、名詞の前に一種の冠詞である母音が1個付くが、これは呼びかけでは用いられない。なお(101.3)の muzê:i はスワヒリ語 mzee 「老人」からの借用である。しかし今日のニョロ語では極めて頻繁に用いられ、あたかも、老人（男）に対しての mugurûsi を駆逐したかのようである。ただし、この語は本来スワヒリ語であり、ニョロ語でも使われるとはいえ、非正式的で俗語っぽい感じがするため、この語で呼びかけられるのを嫌う人も多い。なお、普通名詞としての omuzê:i は、男性に対しても女性に対しても用いられるが、呼びかけのタイトルとしては男性に対してのみである。